

社会保険労務士 <sup>ながさわ</sup>長沢 <sup>ゆき</sup>有紀 <sup>さん</sup> さん

輝く女性

会保険労務士の資格を取得しました。同僚がお花やお茶を習っている時に、自分を高める手段として勉強に打ち込みました」と振り返る。

銀行員だった23歳、2度目の受験で合格し、直後に辞表を出した。上司からは「資格で

全国最年少の25歳(当時)で社会保険労務士事務所を開設してから16年目。埼玉県内の事務所では、職員4人と机を並べる。顧問契約を結んでいる企業は約100社あり、30〜50人規模が多い。残業代や解雇問題に関する労使トラブルが非常に増えている。最

当時の職場は、結婚や出産を機に退職するのが慣例だった。20年、30年後を見据え、仕

に泣かれた。

25歳で事務所を開設したものの、顧問先を開拓できず、半年間は仕事も収入もなかった。「一円を稼ぐ厳しさが身

全国最年少で事務所開く

近では、精神疾患による休職や新型インフルエンザについての相談も多い。年末を控えた。

一流になるためにと、都内の著名な社会保険労務士事務

にしみました」。資格学校の講師のアルバイトをして何とかしのいだ。

つい弱気になることもあったが、「実行する勇気がなく、何もしないであきらめるのは、自分のプライドが許せませんでした」。人脈を広げるために、異業種交流会にも顔を出し、種をまいた。「雇用

にかかわる問題は、誰にとっても一大事。それだけに、人相手の仕事に生きがいを感じています」と話す。



(明日に続く)